

IPTVアクセシビリティコンソーシアム

開催レポート

誰もが楽しめるスポーツのために
いま、求められていること

日時 | 2025年3月12日(水) 14:00 - 16:00

主催 | IPTVアクセシビリティコンソーシアム

もくじ

◆ 主催者挨拶

PTVアクセシビリティコンソーシアム
大嶋 豊基 事務局長(株式会社アステム 取締役社長)

◆ ご講演

「誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること」
重田 千輝 (認定NPO法人障害者放送通信機構 キャスター)

「東京2025デフリンピックを見据えた スポーツイベントでの情報保障の取り組み」
和田 弘江 (株式会社日テレ アックスオン)

「MBS放送トライアル企画 ラグビーを音声解説付きでテレビ観戦!」
林田 しげる (社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センター サービス部長)

「誰もが楽しめるスポーツのために おすすめしていきたいこと
知的に障がいがあってもスポーツをやりたい、観たいのです!」
西 恵美 (全国手をつなぐ育成会連合会 副会長)

◆ まとめ

「情報を一刻も早く伝える大切さ実感」
事務局 小林 拓 (株式会社アステム 副社長)

主催者挨拶

開会ご挨拶

大嶋 豊基 IPTV情報アクセシビリティコンソーシアム事務局長(株式会社アステム)



本日はスポーツと情報アクセシビリティをテーマにした本セミナーにご参加いただきありがとうございます。

情報アクセシビリティの課題は、大規模災害があるごとに、命に関わる問題だと認識が深まってきました。ちょうど今から30年前、1995年1月17日阪神大震災は6,434人の方の命を奪いました。

この時は、緊急地震速報もなく、テレビの字幕放送もありません。手話でのニュースもなくなって、地震直後から情報が聴覚障害者にはまったく届かない事態となりました。

この経験から、自分たち自身で字幕、手話を付与した放送を確立しようと始めたのが、聴覚に障害のある方のための放送局である「目で聴くテレビ」です。本日も「目で聴くテレビ」でディレクター、キャスターを務める重田千輝さんから講演もございますが、一貫して手話と字幕による情報保障を進めて来られました。

そして、今から14年前、2011年3月11日東日本大震災では、地震発生直後から緊急の報道番組が放送され、多くの番組に字幕が付与されるようになりましたが、情報共有の即時性に差があったと障害者団体のご報告もありました。

前回の報告でもありましたように、昨年1月の能登半島地震では、発災直後の緊急TVニュースでも、手話字幕が付与されていました。しかし、聴覚障害者、視覚障害者の情報不足は、発災時のみではなく、避難先での対応ではまだまだ情報不足があり、知的障害者、精神障害者は、避難所にも入れなかった例も報告されました。

詳しい内容は、IPTVアクセシビリティコンソーシアムのホームページでも公開しておりますので、ぜひご参照いただければと思います。

震災時の情報アクセシビリティの課題は、社会全体の共通認識になりつつあります。

しかし、この課題は、震災時のように命に関わる問題だけにはいけないというのが今回のセミナーのテーマとなります。オリパラに代表されるように、世界的なスポーツイベントには社会の常識を変える力を持っています。

11月に開かれる「2025東京デフリンピック」にむけた手話実況者の育成などの取り組みや、ラグビーの試合に生音声解説をつけた取り組み、知的障害者が楽しめる情報発信のあり方など、それぞれの立場から多彩にご講演いただく予定です。ぜひ時間の許す限り、ご視聴いただき、ご感想などもお寄せください。よろしくお願いいたします。

ご講演

誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること

重田 千輝 (認定NPO法人障害者放送通信機構 キャスター)

誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること

認定NPO法人障害者放送通信機構
重田 千輝

誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること

認定NPO法人障害者放送通信機構
重田 千輝

では、改めまして、皆様こんにちは
私は、今、紹介いただきました

講演のテーマは「誰もが楽しめるスポーツ」ということで、私からはろう者がスポーツを楽しんで見るためにはどうすればいいか、何が必要かということをお話したいと思います。

スポーツ中継から得られる情報の大切さ

- プロ野球中継
- 箱根駅伝

スポーツ番組を見る時も情報が大事だという話です。私の経験をお話したいと思います。プロ野球中継についてです。私が小学生、中学生の頃は野球をやっていました。今も野球が好きでテレビもよく見ます。小学生の頃は、野球中継の映像に字幕はほとんどなかったと思います。中学生の頃から、やっと増えてきたという感じです。その字幕を見て、驚いたことがあります。たとえば選手の紹介、背景、生まれ育ちなどの色々な説明があります。字幕があると様々な情報が得られます。私が覚えていることは、試合を見ている時に、ピッチャーとバッターが対決します。その時に、字幕を見てびっくりしたのは、そのピッチャーとバッターは、普通にただピッチャーとバッターという関係だけではなくて、実は出身校が同じ。しかも、寮の同じ部屋の先輩・後輩という関係だったということが、字幕で紹介されていて、それが今、対決しているという、その情報が字幕として出ていました。情報があると、いっそう関心・興味を持って見ることができます。

もし字幕、情報がなければ、普通にピッチャーとバッターの対決だなということで、そんなに没入感を持って見ることはできませんでしたが、情報のある・なし、つまり字幕がある・なしによって、映像の見方、見るときの気持ちが変わります。情報はとても大事ということを実感しました。

次の例は箱根駅伝です。高校、大学のときは陸上部に在籍していました。中長距離、1500mとか5000mをしていました。箱根駅伝は毎年見ます。箱根駅伝のときは、もちろん、今は字幕が入っています。選手の背景だけではなく、例えば、走り方とか、フォームについて、戦術についてなどのような技術的な解説もあります。それを見ると、自分の競技の参考になる、そういう情報があるわけです。もし字幕、そういう情報がなければ、自分の競技力アップになかなか繋がらないのではと思います。情報を得ることにより、自分自身の競技力もアップできます。情報はいろいろな意味で大切です。字幕がなければ、見ていても味気がない。自分の競技や実生活に繋がるという意味で、やはり情報、字幕があることがとても大切です。けれども、字幕があれば、それで全部解決できるかというと、そうではありません。

字幕の問題点

- タイムラグがある
- 話している人の感情がわかりづらい

字幕は字幕の問題があります。まず、タイムラグがあります。スポーツ中継には実況、解説があり、それを聞いてから字幕を出すので、どうしてもタイムラグができません。

例えば、あるプレーが終わったあと、そのプレーの実況の字幕が遅れて出されるというタイムラグがあります。見ている、没入感や臨場感が持ちにくいことがあります。それが問題の1つです。話している人(実況者・解説者など)の感情や気持ちが伝わりにくい、わかりにくいこともあります。例えば、野球の試合のとき、打者がホームランを打ったとします。実況者は「打った、大きい! 入るか、入るか?ホームラン!」という実況をしますね。けれども字幕で見ると「打った、大きい、入った、ホームラン」という文字だけが出てくるために、見ても感情がわかりづらいです。そこで温度差を感じるということです。字幕を見るだけでは、冷静に落ち着いて話しているのかなと思ったら、実際には絶叫していることがあります。

このようなことが字幕の問題点として挙げられます。

手話実況・解説の良さ

- タイムラグなし
- 感情がわかりやすい
- ろう者にとって理解しやすい

そこで、手話言語による実況・解説が必要になってきます。

もし、実況や解説を務める人が、ろう者自身、または手話ができる人だと、やはり聞こえない人が見ていて、すぐにその情報も入ってきますし、字幕のようにタイムラグもなく、同時に入ってきます。

もう1つ、良い点は、感情がわかりやすいということです。手話でいえば、音声の日本語と同じで、手話の場合もすごく感情を込めて、表すことができます。見ている人にもその感情が分かりやすい。実況者、解説者の感情が見ればわかる、すぐに伝わってくるということです。

次にろう者にとってわかりやすい。これがとても大事です。たとえば、日本人の方で英語ができる人で、スポーツの実況など見るときに、英語での実況を聞いたら、もちろん、英語がわかる人はわかるかもしれませんが、やはり第1言語である日本語で聴いた方が、スムーズに入ってくると思うんですね。それと同じで、ろうである私たちの第1言語は手話言語です。ですからスポーツ実況も、日本語の解説よりも手話での実況があったほうが、自分たちにすんなり入る、分かりやすいということです。

そして、さらに臨場感や没入感を持って見ることができます、それが大事なことだと思っています。

手話言語アナウンサー・解説者・ 手話通訳者養成研修

- 全日本ろうあ連盟主催
- 2024年5月～8月の間に5回実施
- 58名が参加(49名修了)
- 活躍中のアナウンサーや解説者、ろう実況者からの講話や模擬中継などが行われた。

このような課題があるということで、全日本ろうあ連盟が昨年「手話言語アナウンサー・手話言語解説者・手話通訳者養成研修」を開催しました。2024年5月から8月の間で、5回開催し多くの講座が行われました。参加者は58名でろう、手話通訳者の参加がありました。その中で、修了した人は49名です。実際に活躍されているアナウンサーや解説者、ろう実況を行っている方などが講師となって、参加者はその研修を受けました。私も講師として、研修に参加させていただきました。その時、いろいろ驚くことや意見などをたくさんいただいて、私自身も勉強になりました。

リアルタイム配信の実施

- 「第58回全国ろうあ者体育大会inぐんま」
- 研修修了生から選抜した25名が出演
- アイドラゴン(目で聴くテレビ専用受信機)
& YouTubeでの生配信
- 視聴者からの感想

去年9月、群馬で開催された「第58回全国ろうあ者体育大会in群馬」、この時にスポーツ中継をリアルタイムで実際に中継しました。バレー、サッカー、卓球、この3つの競技について、手話実況と解説、それからレポートを行いました。先ほど紹介しました研修の修了生49名の中から、25名の人を

誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること

選拔し、実際に行いました。この25名は、MC、実況、解説、レポーター、としてそれぞれ振り分けられました。

MCというのは、中継全体の総合司会をする人です。実況は試合の様子を手話で実況します。解説者も手話で解説をします。レポーターは競技会場に行って、その様子を手話でレポートしました。

リアルタイムの実況については、「アイ・ドラゴン4」という「目で聴くテレビ」を視聴するための機械がありますが、この受信機で見ることができ、またYouTube、この2つを使って配信しました。3時間にわたって中継をしました。

見た人から色々感想を寄せていただきました。たとえば、タイムラグがないので、本当にリアルタイムで情報が伝わるのがとてもうれしかったとか、解説の感情もすごく伝わってわかりやすかったという声をいただきました。さっき字幕の場合の課題を説明しましたが、それが、この方法で解決できたということです。手話実況、手話解説は、本当に必要で大事ななと思いました。

今後の展望と課題

- 実況解説の経験を重ねる機会が少ない
- 養成の場も少ない
- 必要性の周知
- 誰一人取り残さない放送の実現

最後に今後の課題です。今までお話ししたように、手話実況、解説はとても大切で必要です。けれども、その経験を積み重ねられる場所、機会が非常に少ないのが現状です。

実際に実況、解説をして放送する機会が、なかなか増えません。その経験を積み重ねることができない。「聞こえない人は情報が少ない」という現状をそのままにしないためにも、やはり経験を積み重ねられる場所。手話実況、解説を付加して放送する所が増えてほしいと思います。

放送する場だけでなく、養成する場も少ないです。先ほど紹介したような研修は去年開催されたばかりですが、それに似た研修がその後、増えていないので、手話実況解説ができる人を増やすのがなかなか難しいです。放送、養成の場、それぞれがもっと増える必要があります、それが今求められていると思います。そのためには、まず手話実況、解説が必要だということを多くの人に知ってもらうことが必要だと思います。

たとえば、「手話が必要？ 字幕があればいいんじゃないの?」「字幕で十分でしょう」という見方

が、実際にあります。そうではなく、字幕だけではなく、手話も必要ということをごに多くの方々に知らせていきたいと思っています。ですから今日のような、このコンソーシアムのような場も、私にとっては大切な場です。

手話実況・解説の必要性、重要性を理解していただくためにも、今日は大事な場だと思っています。手話実況・解説を行う人が増えると、聞こえる、聞こえない人が対等に情報を得られる、一緒に見て楽しむことができる。誰一人取り残さない放送のために、そういう放送をもっと増やしていく、放送の形を多様化していく、それが今とても大切なことだと思っています。

誰もが楽しめるスポーツ番組を実現していくために、手話実況・解説が必要であるということをご、少しでもご理解いただけたことを願って、私の話を終えたいと思います。ありがとうございました。

東京2025デフリンピックを見据えた スポーツイベントでの情報保障の取組み

和田 弘江 (株式会社日テレアックスオン 企画戦略センター新規事業・海外事業開発部)

東京2025デフリンピックを見据えた スポーツイベントでの情報保証の取組み

株式会社 日テレアックスオン **AX ON**
企画戦略センター 新規事業・海外事業開発部
和田 弘江

1

今日は通訳さんがいるのでこの後は通訳さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。




AX ON

とは？

テレビ、映画、CM、ネット配信、PVなどあらゆる映像コンテンツや舞台、イベント企画、字幕・解説放送、アーカイブ映像管理サービス、広告代理店業務、IPビジネスなど様々なサービスやコンテンツを日本、そして世界に向けて企画・制作する会社です。

これまでの障害者スポーツでの実績



パラ陸上でのYouTubeライブ配信



BS日テレ
「ストロングポイント」制作



スペシャルオリンピックス

2

弊社、日テレアックスオンは、日本テレビグループの映像制作会社ですが、テレビ番組の制作だけでなく、配信、CM、さまざまなメディアに対応したコンテンツ制作を手がけています。これまで、パラ陸上競技のYouTubeライブ配信や、BS日テレ『ストロングポイント』での番組放送など、障害者スポーツに関わる取組みも続けてきました。さらに、知的障害のある方々が参加するスペシャルオリンピックスでは、キャスター体験企画にも協力させていただいています。

概要

2023 World Games of Deaf Athletics Teams 兼

第20回記念日本デフ陸上競技選手権大会 兼
第3回日本デフU18陸上競技選手権大会

日時: 2023年11月3日(金)、11月4日(土)、5日(日)
会場: 【大会1日目】大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
(ハンマー投競技のみ)

【大会2・3日目】駒沢オリンピック公園総合運動場
陸上競技場

参加: イタリア、ウクライナ、エストニア、
オランダ、スロベニア、チェコ、ドイツ、
トルコ、日本、ハンガリー、
ポーランド、モーリシャス、台湾



3

2023年デフ陸上協会と初めて連携し、情報保障を付けたスポーツ中継に取り組みました。大会の概要はここにあるとおりです。この大会は、デフ陸上の日本代表選手らが出場する従来の日本選手権に加え、デフリンピックを意識した海外招待選手の参加により、国際色豊かな大会へと進化し、イタリア、ウクライナ、エストニアなど、各国から多くの選手が来日し、熱戦を繰り広げました。

2023WGDAT 兼 第20回記念日本デフ陸上競技選手権大会・第3回日本デフU18陸上競技選手権日選手権

YouTubeライブ配信の字幕事業

アナウンサーなどが話した言葉を
リアルタイム字幕で表示
競技場内に作業所を設けて出張制作



ろう者による実況解説

手話通訳を介してろう者が実況解説を行った



4

実はその前年、2022年にも弊社でライブ中継を担当しましたが、当時は予算が限られており、カメラ一台でのミニマムな構成でした。2023年は環境を整え、字幕を付けた本格的な中継を実現。競技場には2トントラックを持ち込み、車内でリアルタイムの字幕制作を行いました。また、解説者としてろう者の方にも参加いただき、手話通訳を介した実況解説が行われました。当

初はタイムラグを懸念していましたが、実際には非常にスムーズで、読み取り通訳の音声そのまま解説者の声だと勘違いされるほど自然な流れでした。日本のスポーツ中継では、聞こえない方が解説者を務めるのは初の事例だったと思います。

2023WGDAT 兼 第20回記念日本デフ陸上競技選手権大会・第3回日本デフU18陸上競技選手権日選手権

競技場内に字幕

リボンビジョンを設置し
場内アナウンスを文字で表示
☞2025年に向け
外国語も対応できるよう検討中



場内ビジョン手話通訳表示

リザルトなどが表示されるビジョンに
クロマキーで合成した手話通訳を表示



5

競技場内の情報保障としては、「リボンビジョン」と呼んでいるLEDパネルを用い、アナウンス内容をリアルタイムで文字表示。それが上段左側の写真です。「リボンビジョン」の目の前に作業卓を作った様子が隣の写真です。

また、手話も必ず表示したいと考え、会場に設置されたビジョンを活用し、手話通訳をクロマキー合成で映し出しました。テレビ配信と同様に、ワイプではなく全身を見せる構成としましたが、予算の都合上、当時は配信映像への手話通訳挿入までは実現できませんでした。いろいろな予算の関係などで、2023年の情報保障はここまでにとどまりました。

《準備の様子》



電源車から電気を供給するためトラスを使用

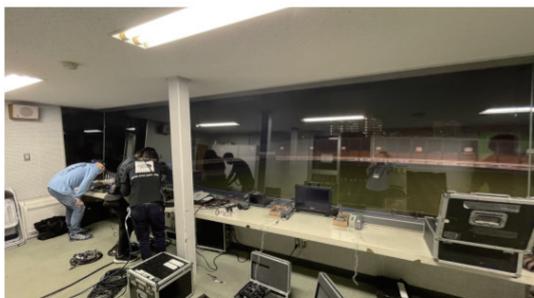
リボンビジョンはパネル式で競技場で組み立て



6

準備の様子です。東京、駒沢の陸上競技場でやりましたが、電源が少し足りなくて、電源車を用意し、トラスといって、大がかりな橋みたいな機材を設置しました。「リボンビジョン」は、コンサート等で使用されるLEDパネルの技術を応用しました。

《YouTube 中継ライブ配信》



YouTubeでのライブ配信の実況席の準備の様子

制作・技術 打ち合わせの様子



7

ライブ配信の中継は、駒沢の陸上競技場内にあるガラス張りになっている放送席で実施しました。スタッフ、技術等、50人ぐらいかかりました。準備の様子もご紹介させていただきます。

《リボンビジョン》

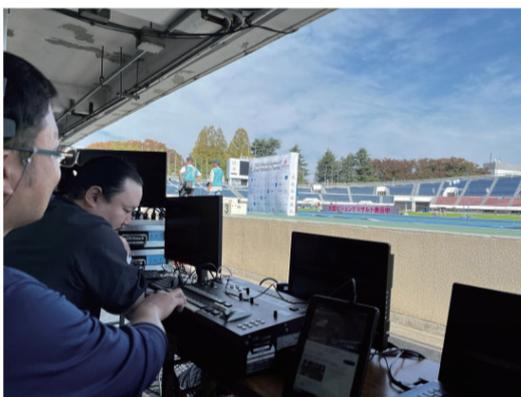


8

先ほど「リボンビジョン」を紹介しましたが、「〇〇高校の選手はBゲートへ集合してください」「表彰式は遅れています」といった場内で放送されていたものを、視覚的にも伝えることができました。今までアナウンスだけで放送されていたものを、リアルタイムで字幕に打ったものが、右側の黒い背景に白い文字でなっているものです。

それとは別に、もともと決まっている種目の説明や、日本選手権の情報は、事前に準備して、効果的におしゃれにCGも動くように等、用意させていただきました。

《リボンビジョン》



9

これは作業の様子です。

概要

2nd World Games of Deaf Athletics Teams 兼

第21回記念日本デフ陸上競技選手権大会 兼
第4回日本デフU18陸上競技選手権大会

日時: 2024年11月29日(金)、11月30日(土)、12月1日(日)

会場: 【大会1日目】大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
(ハンマー投競技のみ)

【大会2・3日目】駒沢オリンピック公園総合運動場
陸上競技場

参加: アメリカ、ウクライナ、イタリア、
スウェーデン、チェコ、韓国、
日本、台湾、フィリピン、
ドミニカ共和国、トルコ



10

去年もおかげさまで、またデフ陸上様と一緒に日本選手権と海外選手をお呼びした大会の情報保障をさせていただきました。1ヶ月ぐらい、おとしとは1ヶ月ぐらい時期がずれまして、デフリンピック前のアジア大会と重なり、海外からの参加人数が少なくなったものの、再び海外から選手たちを招聘して大会を実施することができました。

2024WGDAT 兼 第21回記念日本デフ陸上競技選手権大会・第4回日本デフU18陸上競技選手権日選手権

《中継配信》

- ・字幕のみ ➡ 手話ワイプ & 字幕

《リボンビジョン》

- ・日本語のみ ➡ 日本語 & 英語対応に

《手話モニターを設置》

- ・日本手話 & 国際手話を大型モニターで設置



11

昨年の大会では、さらに内容をブラッシュアップしました。中継配信では字幕に加えて手話通訳を挿入し、2重の情報保障を実現しました。「リボンビジョン」も日本語と英語の2言語対応にアップデートし、海外選手にも配慮した構成としました。

さらに、ビジョンの老朽化や視認性の問題を踏まえ、より大型で鮮明な「手話ビジョン」を新たに設置し、競技の進行を見ながら視線移動のストレスを軽減する工夫も取り入れました。こちらの写

真の左側に人が映っているのが手話モニターで、黒い背景のものが、「リボンビジョン」の英語バージョンになっています。

【配信(Aパターン)】
 (萌宇さん+ろう解説者)

- ①...陸上競技映像(ダーティー)
- ②...手話実況(萌宇&ろう解説)
- ③...リスピーク字幕

平嶋姉妹「Land Hey(らんどへい)」
 SNSで手話を紹介する動画配信活動
 スポーツの手話実況は初めて
 11月にNTV総原アナに実況講座を受ける

←実際の想定@駒沢競技場 放送室(指令ブース)

- ・実況解説の前に膝下ローテーブル1枚必要
- ・リスピーク用にスタンドマイク2本
- ・それぞれモニター配置を一考 ・制作インカム2本
- ・解説者の入れ替えなど、導線の確保課題

12

この配信に向けて、群馬で行われた全国ろうあ者体育大会でアステムさまが実施された画面構成を参考にさせていただき、私どもも今回、こうした画面構成とさせていただきました。ありがとうございました。

実況には、全日本ろうあ連盟主催の手話言語アナウンサーの養成講座を修了した平嶋萌宇さん、そして声のリスピーク(音声化)を姉の沙帆さんが担当しました。解説は、日本デフ陸上協会のコーチである三枝 浩基さん。限られたスペースでのクロス配置ではありましたが、掛け合い形式での解説が可能となりました。

この隣りに、この後ご紹介する通訳の方達もスタンバイされ、かなり混雑したスタジオになっていました。

【配信(Bパターン)】
(萌宇さん+沙帆さん)

- ①...陸上競技映像(ダーティー)
- ②...手話実況(萌宇&沙帆)
- ③...リスピーク字幕

Bパターンの想定

- ・番組頭の枠づけ
- ・競技間の繋ぎ
- ・解説者不在時の競技実況

←実際の想定@駒沢競技場 放送室(指令ブース)

- ・解説者の入れ替えなど、導線の確保課題

13

2パターン目ですが、平嶋さん姉妹二人で掛け合い形式のオープニングとクロージングを構成。日本テレビのアナウンサーによる事前指導を受け、スポーツ実況への理解を深めたうえで収録に臨みました。なお、沙帆さんは「手話は言語であり、声は必要ない」という意見もある中で、普段通り日本語対応手話で音声を伴って出演されました。いろんなご意見があるのは重々承知していますが、手話の多様性と、手話を第一言語としている人だけでなく、学びの途中にある視聴者への配慮から、この形式を選びました。

【配信(Cパターン)】
(聴者実況+聴者解説)

- ①...陸上競技映像(ダーティー)
- ②...手話&ろう通訳(聴者実況&聴者解説)
- ③...聴者実況解説 字幕

Cパターンの想定

- ・解説者が聴者
- ・Aパターンとの組み合わせ

←実際の想定@駒沢競技場 放送室(指令ブース)

- ・実況解説は去年同様、競技場を向いてアナウンス
- ・フィーダーは地声で聞いて手話→ろう通訳へ
- ・聴者実況アナ×ろう解説が画面構成上不可能で断念
⇒デフリンピックでの実施に向け要検討

14

Cパターンは、長時間の競技では、養成講座を卒業されて、まだ現場に慣れていない手話言語実況者に過度な負担がかかるため、スポーツ実況の経験がある柴崎アナウンサーに依頼しました。柴崎アナウンサーは一昨年の中継配信も担当し、実績があります。

誰もが楽しめるスポーツのために いま、求められていること

通訳は、当初聞こえる通訳の方にそのまま通訳していただく形ですと、民放テレビの手話ニュースなどもそうですが日本語対応手話になって見にくいという意見もかなり聞いたので、ろう通訳を採用することにしました。音声→フィーダー→ろう通訳という流れを取り、手話通訳がお二人並ぶというのが、かなり見慣れない形だったので、視認性向上のため「実況」「解説」の札を用意するなど、試行錯誤を重ねました。しかし、実況・解説は、掛け合いなので、言葉が重なる部分もあり、通訳しにくいというフィードバックをいただいたので、すぐ次の日には、実況と解説の手話通訳者が並んで出演するスタイルに改善しました。

【配信(Dパターン)】
 (聴者実況+聴者解説)
 ①...陸上競技映像(ダーティー)
 ②...日本手話&国際手話
 ③...聴者実況解説 字幕

柴崎啓志アナ
 ※去年実況担当ボイスワークス

Dパターンの想定
 ・DAT表彰式

←**実際の想定@駒沢競技場 放送室(指令ブース)**
 ・実況解説は去年同様、競技場を向いてアナウンス
 ・国歌斉唱時の手話の統一が課題

15

最後に、デフリンピックを意識して、表彰式に国際手話通訳を導入させていただいたことを紹介いたします。「1位の〇〇さんがメダルを受け取りました」といったアナウンサーの実況に対し、フィーダーを介して、ろう通訳と国際手話での表現を実施。おそらく、日本国内のスポーツ中継で国際手話が使われたのは初めてではないかと自負しています。

国際手話通訳は、「撫子寄合」のご協力のもと実現しましたが、手話ビジョンでも国際手話を表示する中で、国際手話通訳の人数が限られているため、対応は表彰式のみにとどまりました。

私達の持っている課題としては、重田さんからあった通り、手話で実況できる方がまだまだ少ないという点です。今後、手話で実況ができる方が増えていただければいいと思います。次に、聞こえる解説者と手話ユーザーの掛け合い構成が難しい点です。今回は、手話での実況と、聞こえない解説者では、手話で話すため掛け合いは、成り立ったのですが、一昨年お願いした聞こえるコーチ陣と手話での実況者との掛け合いが出来ませんでした。手話の人と手話ができない人が話す場合、手話通訳をどこで出すか、答えが見つからないまま終わってしまったので、今後の大きな課題です。

もうひとつの課題として、Cパターンにおける通訳のリレー方式が挙げられます。具体的には、聞

こえるアナウンサーの発言に対して通訳を入れ、そこから聞こえない解説者がコメントを行い、読み取り通訳をするという構成は可能でした。

しかしその後、画面の構成上、その解説をフィーダーが翻訳し、さらにろう通訳者が表現するという一連の流れになると、情報が複数のステップを経て伝達されることとなります。その過程で、元の意図やニュアンスが失われてしまうのではないか、という懸念の声が上がりました。結果的に、この点については十分に対応しきれないまま本番を迎えてしまいました。ぜひ11月のデフリンピックではそこを解決していきたいと思っておりますので、皆様、色々ご意見をいただければ大変ありがたいです。

MBS毎日放送トライアル企画 ラグビーを音声解説付きでテレビ観戦!

林田 しげる (社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターサービス部)



日本ライトハウスは大阪を中心に視覚障害者の方をサポートしている施設です。リハビリテーションセンター、盲導犬訓練所、盲導犬を育成しています。点字情報技術センターでは、点字の図書・資料、教科書を作っています。わたしは、日本ライトハウス 情報文化センターエンジョイグッズサロンというところに勤めていますが、こちらは点字図書館になります。基本的には、点字の本を作ったり、録音図書などを制作、それを貸出しています。それ以外に、いろいろな視覚障害者向けの機器や用具を展示していますので、いろんな相談なども受けています。

視覚障害者の方が、映画やテレビを見るとき、画面の情報がわかりにくいことがあります。画面展開や人の表情などが分かりにくかったりします。音声解説をつけることにより、視覚障害者の方が、映画を観たり、テレビを観たりを楽しむことができます。

録音図書と同じように、映画やテレビにも音声解説をつけて、それを「シネマページ」といいますが、それを貸出しています。耳で聞いてイメージし、映画などを楽しむというものもあります。視覚障害者にとっても人気があります。

視覚障害者の人も映画やテレビを楽しむことが広がり、点字図書館もそういうものを製作して、貸出もしています。また映画館で観ることも可能になっています。「UD-CAST」とか、スマホのアプリ、あとは「ハロームービー」というアプリを使って、映画館で、そのアプリを使い、音声ガイドが聞こえてきて、映画を楽しむことができるものも増え、そういった環境が整ってきつつあります。またテレビでは、テレビ番組に音声解説を付けて、ドラマなどを楽しんだり、あとはバラエティー番組も一部、教育番組にも音声解説を付けて放送がされるようになってきました。

しかし、テレビで見られる解説放送は、だいたい10%や15%です。視覚障害者の方には少ないという印象をお持ちだと思います。今は限られた番組しか、音声解説付きでテレビを見られないという状況です。字幕だったら本当にたくさんのが番組に付けられています、視覚障害者の方も

同じように番組を楽しめることは、まだまだ先のことかなと思っています。

テレビで音声解説番組を作るには、いろいろな制限があります。たとえば、生で放送されているスポーツ番組や、ライブ中継などでは用意が難しかったり、まだまだそういう技術がなくてできない部分がありました。

このたびMBS毎日放送からご相談いただき、今回初めて「高校ラグビーの決勝に音声解説を付けて放送したい」と相談を受けました。そのことについて、今回お話をさせていただこうと思います。

MBS毎日放送のトライアル企画ということで、ラグビーの試合を音声解説つきでテレビ観戦しようという企画です。実際に、まずはできるかできないかという相談、検討会からはじまりました。実際に2025年1月7日に決勝戦は行われましたが、それに向けて、事前の勉強会を行いました。その勉強会には、当日番組をアナウンサーとして参加する方や、番組の関係者、プロデューサー、制作者、技術者、そういった方々が集まって行いました。

勉強会では、私が日本ライトハウスから放送局に行き、視覚障害者の概論を説明しました。一番重要な点として説明したのは、「視覚障害者の環境」です。視覚障害者の人が見え方によりいろいろあると説明しました。「全盲の人だけではないですよ」と。見え方によっては、視野が狭い方がいたり、霞んで見える方もおられたり、中心部分が見えにくいというふうな視野狭窄の方もおられたり、見え方には本当にいろんな方がいる、ということを説明しました。「視覚障害者の方＝全盲の方ではありません」ということが、まずポイントにしたところです。

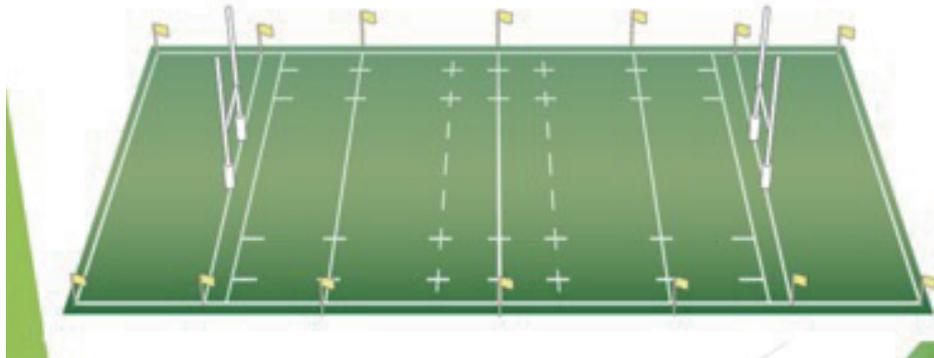
解説放送を実際に行うにあたり留意事項も確認させていただきました。実は私は、以前甲子園のライブ中継、野球放送を担当したことがあり、それを踏まえていかせていただきました。

留意事項は、視覚障害者の方はラジオを聞いていることが多かった。しかし、テレビを観ている方もいます。ラジオは、基本的にはグラウンドに行って、見える情報をアナウンサーが解説しています。実際にグラウンドで行われていることを、自分の目で見て、説明しているということになります。その方が見えている情報を声に出している。テレビの場合は絵に映っているだけですが、実際には、絵はいろんな画面がチェンジしていきますので、そのつど、その画面の説明をしなければいけない、ということをお話しました。

例えば、ピッチャーが投げて、バッターが打って、ベンチの様子が映ったら、ベンチの様子も伝える、観戦者の様子も伝える。そしてバッターが1塁にいった時の表情を伝えたり、そういう形で、画面が移るごとに絵に合わせて説明をします。

ラジオの場合は絵に映る状況と同じじゃなくてもいい、比較的アナウンサーの技量で説明ができるということもあります。その部分が若干違うということです。ただラジオと同じように説明過多にはなりがちです。

- ・リアル中継の解説放送で気を付けること
- ・ラジオとテレビの違い
- ・説明のバランスの重要性
- ・解説放送の伝え方のポイント



野球の場合は、常に攻撃と守りがあり、比較的説明の形を作りやすかったのです。しかし、ラグビーは、ずっと動き続けているので、どっちが攻めてるか、どっちが守っているかが、常に動きの中で変わってくるので、この部分が大きな違いだったと思います。実際に番組を作るうえで、画面に合わせて説明に心がけるといこと。観客の様子、ベンチ、選手の様子など、画面に映ったら、そこで説明を加えるとういことです。

ポイントは、具体的に説明する。動きの説明をする時に、数字で説明しましょうと、お話をしました。何m進んだ、今、何mの地点にいる、ゴールラインからあと何mでゴールになる、何センチでゴールになる、そういったことも伝えながら、場所のポジションがどこに移動しているのか、お伝えするようにしました。観客が歓声をあげたり、どよめきがあったり、そういった場合は、その説明もします。視覚障害の人が、観客がどよめいているけれど、何が起こったんだろうということ、心がけましょうと伝えました。

フィールドが映っていますが、ゴールが左右にあって、その左右のゴールの真ん中がセンターラインです。その横に点々の線があって、右でも左でも、もう1本線がありますが、この線は22mラインです。

ここはラグビーにとってすごく重要で、ゴールまで、あと近くまで来ると緊迫してきます。しかしその22mラインから中央ぐらいでボールが展開されている時は、やっぱり行ったり来たりしているので、あまり展開がないことになります。

説明のバランスを考えるとということも、話し合いました。ずっと動きの説明だけをしていると、聞いている方は、疲れてきます。右にいった、左に行った、パスが3つ出された、左に展開している、タックルを受けた、などずっとそればかり聞いているとすごくしんどい。実際に22mラインの内側で行ったり来たりする攻防をしているときは、解説者の人と話をしたり、ラグビーの一般の放送と同じようなトークをしましょうと言いました。

今回、解説放送を入れた時の形態として、本放送があって副音声になると、副音声のチャンネルに切り換えることになります。本放送にアナウンサーがいて解説者がいます。解説放送にもアナウ

ンサーがいて解説者がいる。よって同じようにアナウンサーが2人いる、解説者も2人いる。どっちで聞いてもちゃんとしたアナウンサーがいて、解説者がいる。どちらを聞いても同じような情報量、ボリュームがある。解説放送だけを聞いたら、なんとなく寂しい放送にならないような放送形態にしました。

実況を聞いているだけだと本当にしんどいので、時々はちょっとユーモラスな選手たちのストーリーやテロップ情報も取り入れながら、メリハリをつけることを心がけましょう、といったこともポイントにしました。

今回、MBS毎日放送から、その時の実況で使った放送の、これは映像が権利上使えないので放送の音だけを聞いていただきます。解説放送でスポーツ実況がされたということを聞いてほしいと思います。

近藤アナノ

22メートルラインの手前、
インゴールまでは
あと23, 4メートルというところで
メインスタンド側からの
マイボールラインアウトです。

フォワードが6人
22メートルラインに平行に並びました。
ボールが入りました。
ボールをキャッチしたロック5番の西野、
そしてボールを組みました。
両チームの選手がボールを持ったまま
立って組み合っています。
1回止まりました。ボールです。
2回止まったらボールを出さないといけません。
ユーズイットの声、
ボールを出しました。

攻める方向に対して、
センターの松本高校ジャパン、
一気に前に出た。
ゴール前5メートルまで
桐蔭がボールを持っていった。
すかさず左に展開。
フォワードが前に出ますが
これは仰星を止めています。
水色のジャージ

密集に殺到します。
守る仰星。
ただボールキープは
白いジャージ桐蔭学園。
桐蔭学園から見て
左中間のフィールド
密集の左サイドをフォワードがつく。
さらにぐっと前に出た。
ゴール前2メートル半
大西さん、
ここはフォワードこだわっていくのでしょうか？

大西(解説)／
そうですね、
この状況を見ての判断だと思いますが、
フォワードとバックス一体となった
ラック周辺で
アタックを仕掛けていくと思います。

近藤アナ／
右へ右へというサイド攻撃を続けて見せています。
白いジャージ桐蔭学園
必死のディフェンスゴールラインを整理した水色ジャージ仰星

大西(解説)／
ボールを持つ選手に対して、
サポート2人必ず付いてますね。

近藤アナ／
ただボールキープは
白いジャージ桐蔭学園
さらに右サイドを突いて潜り込むというところですが、
これもふたをしました。
仰星のディフェンス、
ゴールラインを背にして
しっかり守っています。
さらに右サイドを突く桐蔭学園、
力技で押し込んでいきたいところ
サポートがある2人。
そのボールキャリアの後ろにつくが

仰星を押し戻した
力が入る攻防です。
オール前3メートル
ただボールキープは桐蔭学園
両チーム、反則を出してコースを続けています。
さらに桐蔭学園
今度は左へサイド攻撃を見せました。
7番の新高校ジャパン候補、
キャプテンに止められています。
ここで右ブロック、よし
これも止めた水色ジャージ東海大大阪仰星
さらに右サイドを突く
フォアの力は持っていけるか。
ボールラインの上、
ボールはまだ手前だ
あと30センチ
また右に潜り込んだ。

さらに右へ押し込んだー、
かどうかレフリーが確認する。
まだボールはゴールラインの手前
ボールは桐蔭学園がキープ。
今度は左
これも仰星、体を身を挺して止めましたが
反則のアドバンテージが、
桐蔭学園に来ました。
桐蔭右へ展開、センター
松本、右中間に飛び込んだ
トライー
先制は白のジャージ 桐蔭学園
密集サイドを突いて突いて突きまくってから
最後はボックスに展開。
センター高校ジャパン候補12番の松本
先制トライは
前半手元の時計10分です。

これはトライが行われるシーンです。22mラインのゴール側の攻防で、実況がもうフィールドで行われていることを、アナウンサーが一生懸命話してました。22mラインから真ん中へいっているときは、もうちょっと穏やかにしゃべっているというふうに変化します。

ゴールラインの近くでは、何センチ近づいた、レフリーの様子、他の選手はどう攻防していると細かく説明していたので、試合の状況がわかったと思います。このような形で、実況は行われました。

番組終わってからの感想を聞いても、視覚障害者の人と、視覚障害者じゃない家族の人と聞いても楽しめた、番組のメリハリがとても良かった、こういった番組が増えて欲しいという声をいただきました。もっと表情や動きを説明してほしいと感想もありました。いろんな見方をする方がいらっしゃるので、いろいろな感想もあるかなと思いました。

放送が終わったあとも、実際に集まり、反省会も行い、今後の可能性として野球放送では、解説放送も行われていましたが、他のスポーツでも解説放送を入れて、番組が作れるのではないかと可能性を感じることができた大きな企画だったのではと思います。

MBSさんは、3月30日甲子園で行われるセンバツ高校野球の決勝にも初めて解説放送を付けて行うことを決められました。

最後に解説放送が必要なのは、視覚障害者の人だけではないと私は思っています。字幕の放送も聴覚障害の方だけのためでもないと思っています。字幕でストーリーを確認したり、状況説明を聞いて、わかりやすかったり、確認がしやすかったりすることで、いろんな人にもこういった放送が好まれるのではないかという意味では、選択できることが大事かなと思います。

私はこっちの放送を聞きたい、こういった放送を聞きたい、ときには字幕付きで聞きたい、解説放送つきで聞きたい、選べることが大事だと思います。そういった意味でも解説放送が広まっていかなければいけないと思いますし、今後は、解説放送をもっと周知したい。番組をつくるうえのノウハウをもっと構築していきたいです。実況できるアナウンサーなど人材を育成していくことが、今後の課題になると思います。

誰もが楽しめるスポーツのために すすめていきたいこと
知的に障がいがあってもスポーツをやりたい、観たいのです！

西 恵美（全国手をつなぐ育成会連合会 副会長）



誰もが楽しめるスポーツのために すすめていきたいこ と

知的に障がいがあってもスポーツをやりたい、観たいのです！



全国手をつなぐ育成会連合会

西 恵美



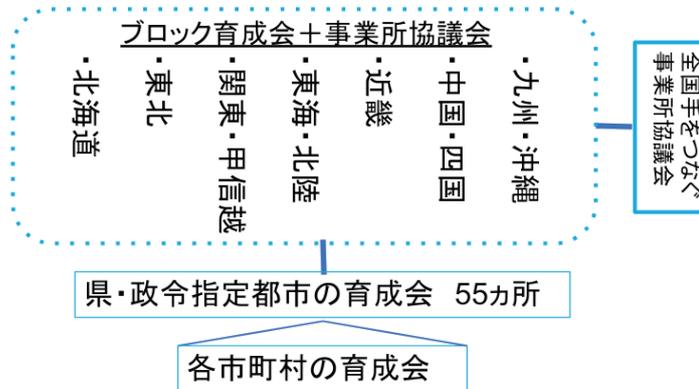
育成会の西と申します。よろしく
お願いします。
まず、



全国手をつなぐ育成会のご紹介

(会員およそ10万人)

一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会 組織図



2

全国手をつなぐ育成会とは、どんな組織か、ちょっとご紹介します。全国の市や町に大小さまざまな育成会があります。その育成会が県などの育成会になり、これが55か所にまとまって7つのブロックと、小規模作業所の集まりである全国手をつなぐ事業所協議会が一つになって全国手をつなぐ育成会連合会を形成しています。



私の娘 麻紀子

私の娘は、重度の知的障がいがあります。生後6カ月でてんかん発作を起こし、難治性てんかんである「ドラベ症候群」に分類されています。

効く薬がなかなか見つからず、これまで何十種類も試していますが、今年11月には40歳になりますが、今も発作は1～2週間に1回のペースで起こっています。

今日の私の話は、あくまでも知的障害のある人たちの親としての想いを聞いていただけたらと思っています。



3

私も知的障害のある娘の母親です。私の娘、麻紀子の紹介をします。重度の知的障害があります。生後6か月で、難治性てんかんであるドラベ症候群に分類されています。11月には40歳になります。効く薬がなかなかなく、これまで何十種類も試していますが今も発作が1、2週間に1回あります。今日はあくまでも知的障害のある人たちの親の思いとして聞いていただけたらと思います。



育成会は、知的障害だけでなく 発達障害と言われる方々の困り感も発信

知的障害者の親の会として発足した育成会ですが、知的障害のある方のきょうだいの方にも発達障がいと言われ、知的能力は高いけれど、コミュニケーション能力に課題がある方もおられますので、近年は発達障害の方の意見もあわせて、様々な場面で意見を述べさせていただいています。

ですが、本日は、支援する方がいないと情報を捉えることがむずかしい知的障害のある方への情報提供についてを中心に話をさせて頂ければと思っています。



4

育成会は知的障害者の親の会としてですが、知的障害のある方のきょうだいにも、発達障害と言われ、知的能力は高いが、コミュニケーション能力に課題のある方もおられますので、近年は発達障害の方もあわせて様々な場面で意見を述べさせていただいています。

ですが、本日は支援する方がいないと、情報をとらえることが難しい知的障害のある方への情報提供についての話を中心に話をさせていただきます。



今日のテーマは「スポーツ観戦について」です。
うちの娘は、ゴルフ中継をよく見えています。ルールがわからなくても、ボールがカップに入ると「入った～」と叫び、入らなかったら「おしかったね～」と一喜一憂して観戦を楽しんでいます。

一方、ラグビーなどは、ルールが複雑だからなのか、あまり関心を示しません。



最近、見えない人に対して、リアルタイムで解説をつける放送などがあるようですが、知的障害のある人に、展開が早く、ルールが複雑なスポーツ実況をどう伝えるかは、今後に期待をしたいところです。

5

今日のテーマは、スポーツ観戦についてです。うちの娘は、父親と一緒にゴルフ中継をよく見えています。ルールがわからなくても、ボールがカップに入ると「入った!」と喜び、入らなかったら「惜しかったね」といって、一喜一憂して観戦を楽しんでいます。一方、ラグビーなど、先ほど出ておりましたが、展開が速くて、また、ルールが複雑だからかどうかわかりませんが、あまり関心を示さずに、

テレビで放送していても、「ふん」という感じでどこかに行ってしまう。最近、目の不自由な方に対して、リアルタイムで解説をつける放送などがあるようですが、知的障害のある人に、展開が速く、ルールが複雑なスポーツ実況をどう伝えるかは、今度に期待したいところです。

「オリンピック」「パラリンピック」そして・・・



聴覚障害の方のオリンピック、『デフリンピック』が、今年11月に開催される予定というのを、ニュースなどで紹介されていました。



が、
に

一方、一般の方にはまだまだ知られていないようですが、知的障害の方にはスペシャルオリンピックスがあります。育成会の会員も各地域のスペシャルオリンピックスの活動に参加されている方がたくさんいらっしゃいます。アスリートは、全国で1万人ほどと言われています。ちなみに、うちの娘はてんかん発作も頻繁に起こるので、残念ながら、参加はしておりません。



先ほども紹介ありましたが、聴覚障害の方のデフリンピックが今年11月に開催されることをニュースで紹介されていました。

一方で、一般の方にはまだまだ知られていないようですが、知的障害の方には、スペシャルオリンピックスというのがあります。育成会の会員の中には、各地域のスペシャルオリンピックスの活動に参加されている方がたくさんおられます。アスリートは全国で1万人ほどと言われています。ちなみにうちの娘はてんかんの発作も頻繁に起こるので、残念ながら参加していません。



スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックスが始まったのは、1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたデイ・キャン

プがスペシャルオリンピックスの始まりです。

1968年に正式に組織化され、知的障がいを持つ子ども(6歳以上)や大人を対象としています。現在、世界174カ国で約520万人のアスリートと110万人以上のボランティアが参加しています。(日本のアスリートは約1万人)

スペシャルオリンピックスの特徴として挙げられるのが、ユニファイドスポーツ

という独自のプログラムで、知的障がいのあるアスリートと健常者(パートナー)

と一緒にチームを組んでスポーツを行っています。



スペシャルオリンピックスが始まったのは、1962年にユニス・ケネディ・シュライバー婦人が、自宅で開いたデイキャンプがスペシャルオリンピックスのはじまりと言われています。1962年に知的障害を持つ子どもや大人を対象にしています。世界で約520万人のアスリートと110万人以上のボランティアも参加しています。そのうち日本のアスリートは約1万人だそうです。特長としてあげられるのは、「ユニファイドスポーツ」という、独自のプログラムで知的障害のあるアスリートと健常者(パートナー)と一緒にチームを組んでスポーツを行う、ここが知的障害のある人のスポーツを支えるキーポイントではないかと思います。

たとえば、テレビドラマでは、目の不自由な方には、その場の実況や俳優の表情、例えば「微笑みながら、涙をためて」と言葉を補ったり、耳の不自由な方には文字で表現されます。でも、知的障害のある方は、そもそもその言葉の意味がよくわからないために、ニュースやスポーツ中継をするためには、誰かが本人がわかる言葉に置き換えたり、スポーツのルール、用語などをわかりやすく説明する手立てが必要になってきます。

知的障害者にわかりやすい試合のルールと解説

放送やネット中継における「情報アクセシビリティ」が、いま注目されています。



手話通訳が画面上で見られる番組があったり、目の不自由な方のために、ドラマなどでは副音声で俳優の表情や状況の説明などを聞けたりもします。

そして、テレビをあらためて見てみると、画面には時間やチャンネル表示だけでなくニュースなどでは、項目の表示やニュースコメントの補足などもあり、文字で溢れています。



9

放送やネット中における「情報アクセシビリティ」が、いま注目されています。手話通訳が画面上で見られる番組があったり、目の不自由な方のために、ドラマなどでは副音声で俳優の表情や状況の説明などを聞けたりもします。そして、テレビをあらためて見てみると、画面には時間やチャンネル表示だけでなくニュースなどでは、項目の表示やニュースコメントの補足などもあり、文字で溢れています。



知的障害者への情報提供の難しさ

我が家では、リビングとキッチンスペースに1台ずつテレビがあり、私はキッチンに立った時は自分の好きな番組を字幕放送にして料理を作りながら観ています。

大画面テレビが普及しているとはいえ、画面の中の文字情報が多すぎて、私でさえ「じゃま！」と感じることがありますから、知的障害のある人は、それ以上に 画面のどの場所の文字を読めばいいのか、この漢字は何と読むのか、次々に出ては消えてゆく文字が目に入ってくると、それを追いかけるのに疲れてしまうのではないかと思います。



10

我が家では、リビングとキッチンスペースに1台ずつテレビがあり、私はキッチンに立った時は自分の好きな番組を字幕放送にして料理を作りながら観ています。大画面テレビが普及しているとはいえ、画面の中の文字情報が多すぎて、私でさえ「じゃま！」と感じることがありますから、知的障害のある人は、それ以上に画面のどの場所の文字を読めばいいのか、この漢字は何と読むのか、次々に出ては消えてゆく文字が目に入ってくると、それを追いかけるのに疲れてしまうのではないかと思います。



最近知った NHK のラジオ番組「やさしいことばニュース」

(毎週月曜～金曜 夕方6時45分から5分間)



知人から、NHKラジオで「やさしいことばニュース」というのをやってるよ」と教えてもらいました。ちょっとご紹介しますと…

「米の値段がまた高くなりました。
国は毎週、スーパーで売っている米の値段を調べています。
今月3日から9日までの平均の値段は、5キログラムで3829円でした。
前の1週間より141円上がりました。
去年2月がつの値段は、5kgで2000円ぐらいでした。
今は1.9倍ぐらいになっています。
3月の終わりごろから、国が持っている米こを売ることが決まっています。

米が安くなるか、たくさんの方が注目しています。」
…とこうなっています。



11

知人から、「NHKラジオで『やさしいことばニュース』というのをやってるよ」と教えてもらいました。ちょっとご紹介しますと…
「米の値段がまた高くなりました。国は毎週、スーパーで売っている米の値段を調べています。

今月3日から9日までの平均の値段は、5キログラムで3,829円でした。
前の1週間より141円上がりました。去年2月の値段は、5kgで2,000円ぐらいでした。
今は1.9倍ぐらいになっています。
3月の終わりごろから、国が持っている米を売ることが決まっています。
米が安くなるか、たくさんの人が注目しています。」・・・と、こうなっています。



「やさしいことばニュース」を検索

インターネットで調べると・・・

『やさしいことばニュース』は、
通常よりもゆっくりとしたやさしい日本語で、外国人をはじめ高齢者、
子どもなど誰もが安全・安心な生活を送るのに欠かせない情報を
届けます。」...とありました。

→ 聞いてみました。

確かに、ゆっくりと、センテンスも短く、分かりやすい言葉に置き換え
伝えているので、高齢者や外国人、子どもだけでなく、知的障害のある
方にも十分伝わる内容ではないかと思いました。



12

インターネットで調べると『やさしいことばニュース』は、通常よりもゆっくりとしたやさしい日本語で、外国人をはじめ高齢者、子どもなど誰もが安全・安心な生活を送るのに欠かせない情報を届けます。」とありました。

聞いてみました。確かに、ゆっくりと、センテンスも短く、分かりやすい言葉に置き換えて伝えているので、高齢者や外国人、子どもだけでなく、知的障害のある方にも十分伝わる内容ではないかと思いました。



ラジオ「やさしいことばニュース」から

テレビの「分かりやすいテレビ」



この、ラジオの「やさしいことばニュース」をヒントに、スポーツ中継をする番組にも、知的障害のある方がもっと楽しめる方法がないか、私なりに考えてみました。

13

この、ラジオの「やさしいことばニュース」をヒントに、スポーツ中継をする番組にも、知的障害のある方がもっと楽しめる方法がないか、私なりに考えてみました。



「分かりやすい版スポーツチャンネル」



1. まず『分かりやすい版スポーツチャンネル』を設けて、その画面は、
両チームの得点くらいのシンプルな表示にとどめておきます。
2. 試合の始まるまでは、ルールやペナルティーなどを分かりやすく
紹介する時間を設けて、試合の始まるのを待つ。
3. そして、試合が始まったら、試合を進行とともに事前に紹介した
ルールやペナルティーのおさらいを盛り込みながら解説してもらい
ながら観られたら、もっと楽しめるのではないのでしょうか？

14

まず、『分かりやすい版スポーツチャンネル』を設けて、その画面は、両チームの得点くらいのシンプルな表示にとどめておきます。次に試合の始まるまでは、ルールやペナルティーなどを分かりやすく紹介する時間を設けて、試合の始まるのを待つ。そして、試合が始まったら、試合を進行とともに事前に紹介したルールやペナルティーのおさらいを盛り込んで解説してもらいながら観られたら、もっと楽しめるのではないのでしょうか？

もしかして、もうありますか？



先日、地元のテレビ局でマラソン中継がありました。この放送は、副音声で、メイン音声とは違う切り口で、LINE投稿された視聴者の意見に応えたり、副音声を担当するタレントが、人目を惹くユニークなスタイルで一般参加しているランナーを紹介したりしていました。

この副音声を使った解説放送も出始めており、様々な可能性が期待されます。

そして『やさしい放送』が普及すると、高齢者や子ども、知的障害者だけでなく、誰もが興味をもってスポーツ番組を楽しめるのではないかと思います。

15

先日、地元のテレビ局でマラソン中継がありました。この放送は、副音声で、メイン音声とは違う切り口で、LINE投稿された視聴者の意見に応えたり、副音声を担当するタレントが、人目を引くユニークなスタイルで一般参加しているランナーを紹介したりしていました。この副音声を使った解説放送も出始めており、様々な可能性が期待されます。そして『やさしい放送』が普及すると、高齢者や子ども、知的障害者だけでなく、誰もが興味をもってスポーツ番組を楽しめるのではないかと思います。

AIに期待します！



そして、欲を言えば、AIの進化によって、もう一歩進んで、知的障害のある人それぞれの知的レベルに合わせた解説や「これってどういうルールなの？」

...という質問にも、その人に分かりやすい言葉で説明してくれる、スペシャ

オリンピックスのコーチやパートナー的役割を持った『パーソナルアシスタントAI』機能がついているテレビが普及するといいなアと思っています。



16

そして、欲を言えば、AIの進化によって、もう一歩進んで、知的障害のある人それぞれの知的レベルに合わせた解説や「これってどういうルールなの？」という質問にも、その人に分かりやすい言

葉で説明してくれる、スペシャルオリンピックスのコーチやパートナー的役割を持った『パーソナルアシスタントAI』機能がついているテレビが普及するといいなアと思っています。



そして、 何より本人の意見を聞いてください。

全国手をつなぐ育成会連合会では、これまで一貫して知的障害のある本人の社会参加と権利擁護を掲げてきました。

国連の障害者権利条約のスローガンにもなっている

「Nothing About Us Without Us」(私たちのことを、私たち抜きに決めないで)を受けて、「親が代弁するだけではいけない」と考えるようになり、今年度からは、「知的障害者の組織運営参画等に関する合理的配慮研究事業」を立ち上げ、まずは地域の障害者自立支援協議会など、障害児者に関する会議に実際に参加している本人のヒアリングを行うことから始めています。

スポーツ観戦を楽しみにしている知的障害者はたくさんいます。その方たちの意見も、ぜひ聞いていただけたらと思っています。



17

全国手をつなぐ育成会連合会では、これまで一貫して知的障害のある本人の社会参加と権利擁護を掲げてきました。

国連の障害者権利条約のスローガンにもなっている「Nothing About Us Without Us」(私たちのことを、私たち抜きに決めないで)を受けて、親の思い=本人の言葉ではないということを知り、親が代弁するだけではいけない」と考えるようになり、今年度からは、「知的障害者の組織運営参画等に関する合理的配慮研究事業」を立ち上げ、まずは地域の障害者自立支援協議会など、障害児者に関する会議に実際に参加している本人のヒアリングを行うことから始めています。

そして、最後にスポーツ観戦を楽しみにしている知的障害者はたくさんいます。うちの子も含めてです。

その方たちの意見も、ぜひ聞いていただけたらと思っています。私の親の言葉として、受け止めていただけたらと思っています。



最後までお付き合いいただき

ありがとうございました

...



全国手をつなぐ育成会連合会
西
恵美



まとめ

閉会にあたって

小林 拓 IPTV情報アクセシビリティ 事務局 (株式会社アステム)



本セミナーをご視聴いただきありがとうございました。今年は、デフリンピックが東京で開催されるタイミングで、誰もが楽しめるスポーツのために、スポーツと情報アクセシビリティの課題を取り上げました。

講師の皆さま、本当にありがとうございました。手話の付与や音声解説など、実際にこれまでにない努力が広がっていること、また、その中で、新たな課題も見えてきているということがよくわかりました。

手をつなぐ育成会の西副会長のお話は、すっかり普及してきた字幕に関しても、まだまだ探求する視野を広くしないといけないと考えさせられました。当コンソーシアムは、研究者、IT企業、障害当事者が参画しておりますが、遠い未来の話ではなく、いますでにある技術をつかい、誰もが情報を共有できる社会を実現することをめざしています。

同時に、川森先生のご紹介された、まだまだ普及途上のメタバースでのアクセシビリティの大切さといった観点も、忘れてはなりません。

そうした一歩を皆様と共に、ぜひ歩んでいきたいと考えております。

病気、命に関わるシーンだけでなく、誰もがスポーツや文化を楽しむ機会をもてる、アクセシビリティが豊かな社会に向けて、探求、提案を続けてまいります。どうか引き続き、よろしくお願いいたします。